

事業報告書

令和5年度(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(1) 農作物共済関係

【引受概況】

水 稲

引 受 面 積 : 全引受方式に係る引受面積は、1,649,894.3aで前年産引受面積1,843,796.3aに対し、193,902.0aの減(89.5%)となった。

引 受 率 : 農林水産省発表の作付面積30,600haに対する引受率は、53.9%で収入保険と併せて89.0%となった。

引 受 収 量 : 半相殺方式・全相殺方式・地域インデックス方式の総引受収量は73,466,378kgで、平均実行単収は 506kgとなった。

基 準 生 産 金 額 等 : 品質方式の基準生産金額は、243,725,856円となった。

単 位 当 たり 共 済 金 額 : 半相殺方式・全相殺方式・地域インデックス方式の1kg当たりの平均は195円となった。

麦(令和5年産)

引 受 面 積 : 引受面積は381,346.0aで、前年産引受面積421,745.8aに対し、40,399.8aの減(90.4%)となった。

引 受 率 : 農林水産省発表の5年産作付面積 8,460haに対する引受率は、45.1%で収入保険と併せて84.5%となった。

基 準 生 産 金 額 等 : 災害収入共済方式の基準生産金額は1,697,843,102円となった。

(引受)

年産	共済目的	引受方式	組合員数	引受面積	共済金額	徴収共済掛金	交付金又は 納入保険料	手持共済 掛金
			人	a	円	(A) 円	(B) 円	(A)±(B) 円
5 年 産	水稲	地域インデックス方式	10,416	1,360,202.3	12,679,593,400	4,987,564	5,983,568	13,333,859
		全相殺方式	877	169,060.1	1,381,628,361	1,960,170		
		半相殺方式	506	94,369.5	271,097,519	152,751		
		品質方式	125	26,262.4	219,353,218	249,806		
	麦	災害収入共済方式	延 571	381,346.0	1,519,915,506	32,129,910	6,424,722	38,554,632
			実 562					
	計		延 12,495	2,031,240.3	16,071,588,004	39,480,201	12,408,290	51,888,491
			実 12,486					
6 年 産	麦	災害収入共済方式	延 492	351,872.5	1,406,976,518	28,851,545	5,772,122	34,623,667
			実 487					

水 稲

【被害概況】

気象被害については、田植期以降5月下旬～6月の日照不足の影響により分けつが抑制され穂数は湖南地域で「やや少ない」となった。また、7月下旬～8月中旬が記録的な高温となった影響を受け、不稔もみが平年より多く発生したことから「やや不良」となった。

8月の台風7号の影響で穂ずれや倒伏の被害が発生した。病害に関しては8月上旬以降の天候不順により、一部地域においてイモチ病の被害が発生した。獣害に関しては、県下山間部においてイノシシ、シカ、サルによる踏み倒し及び食害が発生した。以前に比べれば獣害の被害は少ないが、昨年から比べれば被害が増加した。

【評価の概要】

評価については半相殺方式および一筆全損特例、一筆半損特約の被害申告筆の現場確認を各支所で実施した。また半相殺方式以外の方式の分割評価等の見回り評価についても各支所で実施した。本所損害評価会委員による県下作況見回り調査を8月28日(早期品種)、9月14日(中生・普通期品種)に実施した。

麦(令和5年産)

【被害概況】

11月下旬の降雨並びにその後の降雪により土壌が湿潤状態となり、根の生育が阻害され生育不良となった。収穫期に多湿な気象条件が続き、降雨の影響で刈り遅れや倒伏が発生した結果、一部の圃場で穂発芽が発生した。2月から3月にかけて、縞萎縮病による葉の黄化が散見された。一部で黒節病、5月の多雨により赤かび病の発生も見受けられたが被害は軽微であった。鳥獣害に関しては、山間地域では出芽期からシカによる食害、湖辺部や河川に近い圃場では野鳥(オオバン)による食害が発生した。

【評価の概要】

収穫皆無被害耕地については、19筆、335.7a確認した(災害収入共済方式で支払いと重複する農家があるため、一筆全損特例のみでの支払いは18戸、1,298.8a)。本所損害評価会委員による県下作況見回り調査を5月10日(大麦)、5月25日(小麦)に実施した。

(被害)令和5年産

共済目的	引受方式	被害組合員数 人	共 済 金 円	共 済 金	
				共 済 金 額	%
水 稻	地域インデックス方式	132	12,601,022		0.10
	全相殺方式	49	6,509,616		0.47
	半相殺方式	12	999,194		0.37
	品質方式	11	2,752,700		1.25
麦	災害収入共済方式	162	47,307,622		3.11
計		366	70,170,154		0.44

令和4年産 全相殺・品質方式(青色申告書等調査 事業開始3月から6月)

共済目的	引受方式	被害組合員数 人	共 済 金 円	共 済 金	
				共 済 金 額	%
水 稻	全相殺方式	6	2,424,200		0.87
	品質方式	0	0		0

(支払)

共済目的	方式	支払月日	実支払 共済金 円	共済金支払財源					実支払 共済金 共済金
				保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円	その他 円	
水 稻 (令和5年産)	半相殺	令和5年12月25日	999,194		13,333,859	18,281,663			
	全相殺・品質 (一筆全損・一筆半損)	令和5年12月25日	13,180,469						
	全相殺・品質 (事業開始11月～2月)	令和6年5月10日	8,682,869						
麦	災害収入	令和5年12月25日	47,307,622		38,554,632				
水 稻 (令和4年産)	全相殺・品質 (事業開始3月～6月)	令和5年9月20日	2,424,200			2,424,200			
計			72,594,354	0	51,888,491	20,705,863	0	0	100.0

(2) 家畜共済関係

【引受概要】

引受戸数は死亡廃用共済で77戸、疾病傷害共済で97戸となった。引受頭数は死亡廃用共済の搾乳牛2,033頭、繁殖用雌牛1,589頭、育成乳牛646頭、育成・肥育牛20,900頭、育成・肥育馬8頭で合計25,176頭であり、共済金額合計は13,549,391,150円となった。疾病傷害共済では乳用牛2,332頭、肉用牛21,205頭、一般馬6頭で、合計23,543頭であり、共済金額合計は700,004,746円であった。本年度の廃業は5戸であり、新規加入者は2戸となった。

(引受)

区 分	項 目	有資格 頭 数 頭	事業計画 頭 数 頭	引受頭数 頭	引受頭数	共 済 金 額 円
					事業計画頭数 %	
死 廃 用 共 済	搾 乳 牛	1,876	2,125	2,033	95.7	706,502,380
	繁 殖 用 雌 牛	1,543	1,718	1,589	92.5	736,321,700
	育 成 乳 牛 (子牛等)	466	726	630	86.8	184,126,490
			-	16		
	育 成 ・ 肥 育 牛 (子牛等)	20,761	24,903	20,598	82.7	11,920,664,680
			-	302		
	繁 殖 用 雌 馬	0	0	0	-	0
	育 成 ・ 肥 育 馬	6	13	8	61.5	1,775,900
種 豚	0	0	0	-	0	
肉 豚	1,311	0	0	-	0	
	計	25,963	29,485	25,176	85.4	13,549,391,150
疾 病 傷 害 共 済	乳 用 牛	2,342	2,407	2,332	96.9	100,241,862
	肉 用 牛	22,304	20,972	21,205	101.1	599,627,614
	一 般 馬	6	9	6	66.7	135,270
	種 豚	0	0	0	-	0
	計	24,652	23,388	23,543	100.7	700,004,746
合 計		50,615	52,873	48,719	92.1	14,249,395,896

区 分	項 目	徴収	納入保険料	交付金	手持
		共 済 掛 金 円	円	円	共 済 掛 金 円
死 廃 用 共 済	搾 乳 牛	4,641,171			
	繁 殖 用 雌 牛	1,161,201			
	育 成 乳 牛 (子牛等)	798,064			
	育 成 ・ 肥 育 牛 (子牛等)	37,622,354			
	繁 殖 用 雌 馬	0			
	育 成 ・ 肥 育 馬	156,102			
	種 豚	0			
	肉 豚	0			
	計	44,378,892			
疾 病 傷 害 共 済	乳 用 牛	12,268,157			
	肉 用 牛	36,984,503			
	一 般 馬	17,640			
	種 豚	0			
	計	49,270,300			
合 計		93,649,192	0	93,412,184	187,061,376

【 事故概要 】

(死廃事故)

死廃事故総頭数は373頭で、支払共済金は92,876,979円であった。搾乳牛の死廃事故頭数は62頭で、支払共済金は15,336,907円となった。繁殖用雌牛の死廃事故頭数は16頭で、支払共済金は3,592,359円であった。育成乳牛の死廃事故頭数は31頭で、支払共済金は2,622,898円となった。育成・肥育牛の死廃事故頭数は263頭で、支払共済金は71,163,465円であった。育成・肥育馬の死廃事故頭数は1頭で、支払共済金は161,350円であった。前年度実績と比較して頭数、支払共済金共に12頭、5,063,117円の減少となった。死廃事故病類の第1位は消化器病、第2位は新生子異常で、呼吸器病が第3位であった。

(病傷事故)

病傷事故件数は14,863件で、支払共済金は139,015,599円であった。乳用牛の病傷事故件数は2,745件で、支払共済金は31,572,729円となった。肉用牛の病傷事故件数は12,115件で、支払共済金は107,408,967円となった。育成・肥育馬の病傷事故件数は3件で、支払共済金は33,903円となった。前年度実績と比較して頭数、支払共済金共に200頭、4,431,526円の増加となった。病傷事故病類の第1位は呼吸器病で、第2位は消化器病、生殖器病が第3位であった。

(事故)

区分	項目	死 廃 事 故			
		死亡頭数 頭	廃用頭数 頭	総頭数 頭	支払共済金 円
	搾乳牛	32	30	62	15,336,907
	繁殖用雌牛	8	8	16	3,592,359
	育成乳牛 (子牛等)	5 25	1	31	2,622,898
	育成・肥育牛 (子牛等)	105 96	62	263	71,163,465
	繁殖用雌馬	0	0		0
	育成・肥育馬	1	0	1	161,350
	種豚	0	0		0
	肉豚	0	0		0
	計	272	101	373	92,876,979

区分	項目	疾 病 傷 害 共 済	
		件数 件	支払共済金 円
	乳用牛	2,745	31,572,729
	肉用牛	12,115	107,408,967
	一般馬	3	33,903
	種豚	0	0
	計	14,863	139,015,599

(診療所)

診療所名	職員数 人	管 内		診 療 件 数		損 害 防 止 事 業		
		有資格 頭数 頭	加入 数 頭	共済事故 頭	事故外 件	一般 頭(回)	特損 頭(回)	経費概算 円
家畜診療所	15	24,652	23,543	13,510	44,254	7,305	142	1,407,281

(3) 果樹共済関係

【引受概況】

ぶどう

引受面積：引受面積は78.6aで、前年産と同じとなった。

引受率：農林水産省発表の結果樹面積(令和5年産)51haに対する引受率は収入保険と併せて37.2%となった。

標準収穫量：標準収穫量は12,399kgで前年産標準収穫量10,401kgに対し119.2%で、平均単位当たり標準収穫量は1,577kg、国から県への通知単収984kgに対して160.3%となった。標準収穫金額は10,404,843円となり、平均単位当たり価格は839円となった。

なし

引受面積：引受面積は179.8aで、前年産と同じとなった。

引受率：農林水産省発表の結果樹面積(令和5年産)47haに対する引受率は収入保険と併せて44.7%となった。

標準収穫量：標準収穫量は24,171kgで前年産標準収穫量26,626kgに対し90.8%で、平均単位当たり標準収穫量は1,344kg、県通知単収1,313kgに対して102.4%となった。標準収穫金額は13,206,383円となり、平均単位当たり価格は546円となった。

(引受) 収穫共済・半相殺減収総合一般方式

年産	共済目的	組合員数 人	引受面積 a	共済金額 円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は 納入保険料 (B) 円	手持共済掛金 (A) ± (B) 円
5年産	ぶどう	3	78.6	5,591,000	76,724	/	/
	なし	7	179.8	9,485,000	185,226		
	計	10	258.4	15,076,000	261,950	(交) 51,278	313,228
6年産	ぶどう	3	78.6	7,282,000	98,288	/	/
	なし	7	179.8	9,237,000	175,570		
	計	10	258.4	16,519,000	273,858	(交) 42,066	315,924

ア ぶどう

【被害概況】

4月下旬以降気温が平年並～やや低く経過したことから、生長が緩慢となり、GA処理まではやや早い生育となった。6月下旬の高温により、果房に日焼けが発生した。ウドンコ病・べと病が一部で発生したが収穫量に影響はなかった。

【評価の概要】

病害虫の被害が一部で発生したが、全体的に収穫量は確保できており、被害申告はなかった。本所損害評価会委員による県下作況見回り調査を7月27日に行った。

イ なし

【被害概況】

令和4年12月中旬から令和5年2月は平年より低温に経過する期間があったが、6月下旬より高温となったことから、萌芽・展葉は平年よりやや早い生育となった。梅雨入り以降、日照時間が平年を下回り果実についてはやや小さくなったが、その後平年並みの気温で適度に降雨もあり順調に生育し、果実は肥大した。梅雨明け後は高温によるハダニの多発や果肉障害、干ばつや降雨の影響を心配していたが、結果的に収穫量には影響はなかった。

【評価の概要】

病害虫の被害が一部で発生したが、全体的に収穫量は確保できており、被害申告はなかった。

(被害)

共済目的	被害組合員数 人	共済金 円	共済金 共済金額 %	
ぶどう	0	0		-
なし	0	0		-
計	0	0		-

(支払)

共済目的	支払月日	実支払 共済金 円	共済金支払財源					実支払 共済金 共済金 %
			保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円	その他 円	
ぶどう	-	0	0	0	0	0	0	/
なし	-	0	0	0	0	0	0	
計	/	0	0	0	0	0	0	-

(4) 畑作物共済関係

【引受概況】

大豆〔半相殺方式、全相殺方式〕・小豆〔半相殺方式〕

引受面積

大豆：引受面積は255,821.1aで前年産引受面積282,405.2aに対し、26,584.1aの減(9.6%)となった。
 小豆：引受面積は413.5aで前年産引受面積739.7aに対し、326.2aの減(55.9%)となった。

引受率

大豆：農林水産省発表の作付面積7,240haに対する引受率は35.3%で収入保険と併せて87.3%となった。
 小豆：農林水産省発表の作付面積132haに対する引受率は3.1%で収入保険と併せて56.2%となった。

引受収量

大豆：総引受収量 3,031,552kgで、平均実行単収は134kgで県指示単収125kgに対し、107.2%の実行率となった。
 小豆：総引受収量 2,109kgで、平均実行単収は72kgで県指示単収82kgに対し、87.8%の実行率となった。

単位当たり

共済金額 大豆：1kg当たりの平均234円で、前年産の231円に対して3円の増となった。

大豆1類
 :交付農業者 315円 対前年産 交付農業者：310円
 :交付農業者以外 149円 対前年産 交付農業者以外：144円
 :種子 504円 対前年産 種子：504円
 大豆2類：928円 対前年産：964円
 大豆3類：375円 対前年産：392円

小豆：1kg当たりの平均942円で、前年産947円に対して5円の減となった。

(引受)

年産	項目		組合員数 人	引受面積 a	共済金額 円	徴収共済掛金 (A) 円	交付金又は 納入保険料 (B) 円	手持共済掛金 (A)±(B) 円
	区分							
令和5年産	半相殺方式 (大豆)		216	41,433.9	174,230,383	6,038,244	/	/
	半相殺方式 (小豆)		6	413.5	1,986,678	69,369		
	全相殺方式 (大豆)		296	214,387.2	537,584,882	13,519,396		
	計	延 実	518 457	256,234.6	713,801,943	19,627,009	15,310,901	34,937,910

【被害概況】

大豆

6月に播種された圃場では、出芽・苗立ちは良好であった。6月下旬から7月前半に播種された一部の圃場では、降雨による出芽不良がみられたが、梅雨明け以降の高温多照で8月に入ると周期的に降雨があったため、生育は良好になった。

子実の肥大期には日照時間は概ね平年並みから多く推移し、降水量は平年より少なく周期的に降雨があったことから、子実の肥大は順調に進んだ。

病害虫の発生は7月下旬と8月下旬の気温が高かったため、タバコガ類、ハスモンヨトウ、吸実性カメムシ類による子実への加害により減収要因となった。獣害については山間部の一部圃場で防護柵及びネットにより対策は講じていたが、イノシシ・シカ・サルによる食害・踏倒しが発生した。

小豆

全般的に発芽が良好で初期生育は順調であったが、雨の影響により浸水及び排水が悪く滞水した圃場では、土壌湿害による欠株につながった。しかしその後の生育は概ね良好であった。

【評価の概要】

大豆

半相殺大豆の悉皆調査は10月25日～12月27日にかけて 280筆、すき込み・転作は4筆、収穫皆無・発芽不能はなかった。全相殺大豆と合わせての県下作況見回り調査は10月27日・11月22日に実施した。

小豆

悉皆調査を10月26日～12月14日にかけて 29筆行った。

(被害)

区分	項目	被害組合員数 人	共済金 円	共済金 共済金額	
				円	%
	半相殺方式(大豆)	43	4,201,384		2.41
	半相殺方式(小豆)	3	187,458		9.44
	全相殺方式(大豆)	65	15,461,793		2.88
計	延	111	19,850,635		2.78
	実	106			

(支払)

区分	項目	支払月日	共済金支払財源					実支払 共済金 円	共済金 %
			実支払 共済金 円	保険金 円	手持掛金 充当額 円	法定積立 金充当額 円	特別積立 金充当額 円		
	半相殺方式 (大豆)	令和6年3月11日	4,201,384						
	半相殺方式 (小豆)	令和6年3月11日	187,458						
	全相殺方式 (大豆)	令和6年5月8日	15,461,793						
計			19,850,635	0	19,850,635	0	0	0	100.0

(5)園芸施設共済関係

【引受】

引受棟数：前年度引受棟数2,838棟に対し、3,002棟で前年対比105.8%となった。

共済金額：前年度引受共済金額4,370,950千円に対し、4,719,490千円で前年対比108.0%となった。

共済掛金：共済掛金総額は52,004,452円で、このうち国庫負担額が23,666,375円、保険料は及び保険料：17,110,723円となった。

(引受)

施設区分	項目	組合員数 人	引受棟数 棟	引受面積 ㎡	共済価額 千円	共済金額 千円
ガラス室Ⅰ類 (木造)		1	2	912	7,687	6,149
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)		37	56	83,522	1,190,674	1,114,406
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)		3	5	1,552	3,527	3,213
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)		1,143	2,742	775,067	2,864,609	2,481,510
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)		30	37	32,087	165,721	147,187
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)		20	28	18,623	193,135	164,331
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)		34	59	63,732	701,864	586,088
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)		17	27	13,410	207,611	178,457
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)		13	29	8,915	23,928	22,804
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)		10	17	43,266	16,439	15,345
計	延実	1,308 1,033	3,002	1,041,086	5,375,195	4,719,490

施設区分	項目	共済掛金 A 円	農家負担掛金 円	保険料 B 円	交付金 円	手持掛金 A-B 円
ガラス室Ⅰ類 (木造)		8,854	4,427	981	3,446	7,873
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)		1,735,253	1,034,432	87,987	612,834	1,647,266
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)		24,042	14,352	2,732	6,958	21,310
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)		46,677,313	25,322,288	16,585,813	4,769,212	30,091,500
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)		1,104,235	605,183	294,633	204,419	809,602
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)		1,294,068	718,843	57,354	517,871	1,236,714
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)		747,132	389,009	38,300	319,823	708,832
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)		139,218	86,710	8,238	44,270	130,980
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)		111,094	65,789	27,474	17,831	83,620
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)		163,243	97,044	7,211	58,988	156,032
計		52,004,452	28,338,077	17,110,723	6,555,652	34,893,729

【被害及び評価の概要】

令和5年8月の台風7号によりパイプハウス等に被害が発生した(被害27棟、支払共済金1,553,751円)。また、突風および施設内農作物の病害を含め、80棟(前年対比98.2%)、支払共済金7,942,539円(前年対比45.7%)となった。

(被害)

施設区分	項目	組合員数 人	棟数 棟	被害額 円	附帯施設数 基
ガラス室Ⅰ類 (木造)		0	0	0	—
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)		8	9	1,870,233	—
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)		0	0	0	—
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)		76	91	5,355,864	—
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)		1	1	33,448	—
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)		1	2	1,008,350	—
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)		1	1	136,342	—
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)		0	0	0	—
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)		2	2	671,839	—
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)		1	1	111,485	—
計		延実 90 80	107	9,187,561	—

施設区分	項目	支払共済金 円	保険金 円	支払共済金 共済金額 %
ガラス室Ⅰ類 (木造)		0	0	—
ガラス室Ⅱ類 (鉄骨)		1,621,497	0	0.15
プラスチックハウスⅠ類 (木竹)		0	0	—
プラスチックハウスⅡ類 (パイプ)		4,617,506	589,878	0.19
プラスチックハウスⅢ類 (鉄骨下)		26,758	0	0.02
プラスチックハウスⅣ類(甲) (鉄骨中)		806,680	0	0.49
プラスチックハウスⅣ類(乙) (鉄骨中)		109,073	0	0.02
プラスチックハウスⅤ類 (鉄骨上)		0	0	—
プラスチックハウスⅥ類 (雨よけ施設等)		671,837	0	2.95
プラスチックハウスⅦ類 (多目的ネットハウス)		89,188	0	—
計		7,942,539	589,878	0.17
年間超過損害保険金		0	0	—
合計		7,942,539	589,878	0.17

(支払)

区分	支払年月日	実支払共済金 円	共済金支払財源	
			保険金 円	手持共済掛金充当額 円
令和5年度	令和5年5月25日～ 令和6年4月25日	7,942,539	589,878	7,352,661

区分	共済金支払財源			実支払共済金 共済金 %
	法定積立金充当額 円	特別積立金充当額 円	その他 円	
令和5年度	0	0	0	100.0

(6) 損害防止状況

ア 農作物共済

農作物共済事業の損害防止については、下記のとおり獣害による被害防止に努めた。

(ア) 獣害の防止対策については、関係機関と連携して取り組んでいる。防護柵の増設等により被害の軽減は認められるものの、サル、シカ、イノシシ等による農作物への被害が見られており、減収・品質低下・耕作放棄などの問題が発生している。

これらの野生動物から農作物被害を未然に防止するため、農業組合等が実施する獣害対策への支援を行っている。助成対象としては4農業組合等が対象となり495,300円を交付した。

イ 家畜共済

共済事故を未然予防、損害拡大抑制により畜産農家の経営安定を図るため、事業費の6割を国が負担する特定損害防止事業と組合独自の一般損害防止事業を実施している。家畜診療所では多種多様化する畜産農家の損害を分析し、農家ニーズにあった損害防止を行っている。令和5年度の特定損害防止事業費は942,030円、一般損害防止費は465,251円であった。

実施種目		対象頭数・回数 頭(回)	経費 円	摘要
特定損害防止		142	942,030	乳用牛で周産期疾患対策を実施。肉用牛で呼吸器疾患対策を実施。
一般損害防止	予防衛生措置	0	0	
	飼養管理指導	7,305	465,251	乳・肉用牛の代謝プロファイルテスト、乳用牛の乳房炎起因菌同定と薬剤感受性試験、子牛の呼吸器病対策検査、並びに乳用牛、肉用繁殖牛の繁殖検診を実施。
	講習会・検討会	22	0	HACCP会議、家畜保健衛生所との防疫会議、牧場コンサルタント獣医師との検討会、農家ごとの飼養管理検討会等を実施。

(7)任意共済関係

① 建物共済関係

【事業概要】

建物共済については「安心の未来」拡充運動と連携し、役職員一丸となって継続加入の推進および臨時費用特約、小損害実損填補特約の付帯加入推進により補償の充実を図った。また、未継続者を出さないために自動継続特約の推進を行った。農家建物47,826棟(前年対比97.2%)、農家建物共済金額67,457,658万円(前年対比97.1%)の引受結果となった。

建物共済の事故については、令和5年1月の雪害と、8月にかけて発生した落雷事故による棟数は、188棟(全体の46.7%)、支払共済金29,501,983円(全体の35.6%)となった。その他主な事故としては、水道管凍結事故、放火による全焼事故の被害があった。

ア 引受

(a) 農家建物共済引受状況

区分	加入棟数 棟	加入 総共済金額 万円	共 済 掛 金			一棟当たり 平均 共済金額 万円	再共済掛金 及び 任意保険料 円	再共済手数料 及び 保険手数料 円
			純共済掛金 円	賦課金 円	計 円			
火災	34,455	51,607,288	198,421,367	162,002,039	360,423,406	1,498	再共済割合	
総合	13,371	15,850,370	267,022,322	91,060,627	358,082,949	1,185	地震部分 50% 地震以外 30%	
合計	47,826	67,457,658	465,443,689	253,062,666	718,506,355	1,410	再共済手数料 掛金率における 賦課金割合 -4.5%	

(b) 用途別引受状況

用途	棟数 棟	加入共済金額 万円
住宅	31,144	51,237,099
納屋・物置・ 農作業場等	7,147	3,677,232
倉庫・土蔵	2,234	1,260,934
公民館・集会所	1,628	3,180,800
その他	5,673	8,101,593
合計	47,826	67,457,658

(c) 収容農産物補償特約引受状況

【事業概要】

収容農産物補償特約は、新規引受を実施しておらず前年より、加入口数等が減る結果となった。被害申告はなかった。

区 分	加入口数 口	加入総支払 限度額 万円	共 済 掛 金			一口当たり 平均支払 限度額 万円	再共済掛金 及び 任意保険料 円	再共済手数料 及び 保険手数料 円
			純共済掛金 円	賦課金 円	計 円			
総 合	61	6,100	128,100	54,900	183,000	100	再共済割合 30%	再共済手数料 25.50%
合 計	61	6,100	128,100	54,900	183,000	100	54,900	13,991

イ 事故

(a) 農家建物共済事故状況

区 分		事故棟数 棟	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び 任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
火災	火 災	7	51,607,288	33,008,975	9,902,689	0.00640
	拡張担保	140		17,043,353	5,112,955	0.00330
	計	147		50,052,328	15,015,644	0.00970
総合	自然災害	166	15,850,370	25,862,529	7,758,687	0.01632
	火 災	1		8,526	2,557	0.00001
	拡張担保	89		6,975,850	2,092,727	0.00440
	計	256		32,846,905	9,853,971	0.02072
合 計		403	67,457,658	82,899,233	24,869,615	0.01229

(b) 農家建物共済原因別事故発生状況

原因別	事故棟数 棟	対象加入共済金額 万円	支払共済金 円	再共済金及び任意保険金 円	被害率 %
類焼	1	1,800	7,244,546	2,173,363	0.00107
落雷	96	132,300	14,143,975	4,243,147	0.00210
放火	1	2,100	25,125,500	7,537,650	0.00372
風害(突風等)	32	44,400	4,582,200	1,374,649	0.00068
電気配線等の漏電等	2	2,710	8,557	2,566	0.00000
泥棒による毀損	9	7,300	509,876	152,962	0.00008
調査中(原因不明)	1	400	194,836	58,450	0.00003
第三者行為	6	8,900	264,216	79,263	0.00004
台風	40	64,730	5,820,458	1,746,122	0.00086
雪害	92	128,320	15,358,008	4,607,358	0.00228
水道管凍結	62	93,300	2,549,045	764,709	0.00038
水害(大雨・豪雨)	2	3,000	101,863	30,558	0.00002
建物内部の車両衝突	6	6,550	798,449	239,533	0.00012
給排水設備	12	19,260	1,445,861	433,753	0.00021
外部からの物体の落下等	38	63,621	4,307,781	1,292,315	0.00064
電気器具等の加熱等	3	3,300	444,062	133,217	0.00007
合計	403	581,991	82,899,233	24,869,615	0.01229

(c) 収容農産物補償特約事故状況

区分		事故口数 口	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
総合	自然災害	0	/	0	0	-
	火災	0		0	0	-
	拡張担保	0		0	0	-
	計	0		0	0	-
合計		0	0	0	0	-

(d) 収容農産物補償特約事故発生状況

原因別	事故口数 口	加入総共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金及び任意保険金 円	被害率 (ロ)/(イ) %
	0	0	0	0	-
合計	0	0	0	0	-

② 農機具損害共済関係

【事業概要】

農機具損害共済は、クロスコンプライアンス等により引受台数8,926台(前年対比102.4%)、引受共済金額2,937,633万円(前年対比104.8%)と共済金額、台数ともに増加した。

農機具損害共済の事故については、事故台数257台(前年対比108.4%)、支払共済金は70,572,972円(前年対比103.8%)と前年より増加した。

ア 引受

項目	加入台数 台	加入 共済金額 万円	共 済 掛 金			1台当たり 共済金額 万円	
			純共済掛金 円	事務費賦課金 円	計 円		
損害共済	8,926	2,937,633	102,219,763	31,250,000	133,469,763	329	
内 訳	火災共済	820	148,789	1,524,821	814,886	2,339,707	181
	総合共済 (普通物件)	8,045	2,783,121	100,033,344	30,275,912	130,309,256	346
	総合共済 (特殊物件)	61	5,723	661,598	159,202	820,800	94

イ 事故

(a) 共済金支払状況

項目	事故台数 台	加入 共済金額 (イ) 万円	支 払 共 済 金			被害率 (ロ)/(イ) %	
			火 災 円	接 触 等 そ の 他 円	計 (ロ) 円		
損害共済	257	2,937,633	4,950,000	65,622,972	70,572,972	0.2402	
内 訳	火災共済	1	148,789	0	423,500	423,500	0.0285
	総合共済 (普通物件)	252	2,783,121	4,950,000	64,747,221	69,697,221	0.2504
	総合共済 (特殊物件)	4	5,723	0	452,251	452,251	0.7902

(b) 原因別事故発生状況

原因別 \ 項目	事故台数 台	加入 共済金額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	被害率 (ロ)/(イ) %	備 考	
衝突	9	2,937,633	2,109,439	0.0072		
接触	174		34,665,412	0.1180		
墜落	10		3,158,267	0.0108		
転覆	6		17,643,373	0.0601		
異物の巻き込み	32		5,857,821	0.0199		
物の落下・飛来	20		1,460,210	0.0050		
風水害	3		170,554	0.0006		
火災	1		4,950,000	0.0169		
落雷	1		423,500	0.0014		
第三者行為	1		134,396	0.0005		
計	257		2,937,633	70,572,972	0.2402	

③ 保管中農産物補償共済関係

【事業概要】

保管中農産物補償共済は、近年、自然災害が多発しているため加入口数等が増加している。被害申告はなかった。

ア 引受

(a) 引受状況

区 分	加入口数 口	加入総支払 限度額 万円	共 済 掛 金			保 険 料 円
			純保険料 円	賦課金 円	計 円	
Aタイプ	38	3,800	66,500	28,500	95,000	70,756
Bタイプ	8	800	36,400	15,600	52,000	38,736
合 計	46	4,600	102,900	44,100	147,000	109,492

(b) 種類別引受状況

用 途	口 数	加入支払限度額 万円
米	46	4,600
合 計	46	4,600

イ 事故

(a) 事故状況

区 分	事故口数 口	加入総支払限度額 (イ) 万円	支払共済金 (ロ) 円	保険金 円	被害率
					(ロ)/(イ) %
Aタイプ	0	0	0	0	-
Bタイプ	0	0	0	0	-
合 計	0	0	0	0	-